

## 健診センター

2003.12.15	作成
2006.12.10	改訂
2009.12.20	改訂
2015.08.20	改訂
2019.05.25	改訂
2022.12.12	改訂なし
2026.5.19	改定

### 〈検査前準備〉

- ① 超音波診断装置の電源を入れて立ち上げる。
  
- ② 部門システム、ウエットタオル用保温庫の電源を入れる
  
- ③ 超音波診断装置、当日分の検査オーダーを各装置に取り込む（後述の各装置マニュアル参照）
  
- ④ 入口にネームプレートを出す。プレートを「ノックをしてお待ちください」にする

## 〈検査の流れ〉

① 誘導支援（ゼクト）上で待ち時間の長い受診者を、「受診番号〇〇番でお待ちの方、どうぞお入りください。」と言って受診者を呼び入れる。

② 「検査担当する〇〇です。」と名乗る。  
受診者に、「お名前、生年月日をお願いします」と言い、モニター画面とバインダーで本人確認を行う。

③ 健診着をめくり、腹部を出してもらう。

④ 手指消毒をする。

⑥検査部位を説明する。

例) こちらで腹部の超音波検査を行います。

検査部位は、肝臓、胆嚢、膵臓、脾臓、腎臓になります。

検査用ゼリーを付けて行っていきます。

検査中何かありましたら、お声をかけて下さい。

複数項目ある場合は、腹部と脳、血管ドックに含まれる頸動脈を検査しますと説明する。

⑤ 超音波装置の Patient information 画面で ID を読ませ、検査項目 abdomen を選択。検査画面を表示し検査を開始する。

\*検査項目が複数ある場合（腹部、頸動脈、前立腺、乳腺、甲状腺）は、検査終了後、再度 Patient information 画面で ID を読み次の検査を行う。

検査項目が複数ある場合は Patient information 画面に項目数の数だけ表示されるので、対象項目を選択して検査を開始する。

通常は、腹部を検査終了後にオプション（頸動脈、前立腺）を検査する。

### 〈検査後〉

- ① 手指消毒を行う。
- ② 数値データを装置から送信する。
- ③ ファイリングシステムに所見を入力する。
- ④ 尿充満不十分でIコース（泌尿器科ドック）未実施の場合、尿を溜めてもらう様説明。尿が溜まったら、受診者に事務スタッフに声をかけてもらい、検査室に案内してもらう。
- ⑤ 枕、ベッドを消毒する。
- ⑥ 手指消毒を行い、次の受診者を呼び入れ検査を開始する。

### 〈業務終了時〉

- ① 手指消毒をする。
- ② 枕・ベッドを拭く。
- ③ 各超音波装置の保守点検を行う
- ④ 備品の在庫チェック（週1回）